

新潟市急患診療センターだより

第7号 2018年1月



第7号にあたって

明けましておめでとうございます。新年が大きな災害や事故・事件、感染症の大流行などがなく、市民の皆さんが健康で過ごすことのできる、平和な年になることを職員一同願っています。

インフルエンザもこれから本格的な流行に入ることが予想されます。昨年のワクチン不足のため、まだ接種されていない方は早めをお願いします。冬期間に注意すべき健康管理について、3頁に「注意しよう！冬の健康管理」の記事を掲載しましたのでご参考にしてください。特に、急性心筋梗塞などの心臓疾患、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の予防のために、家の中での室温差によるヒートショックに十分注意してください。病気の知識には、脳梗塞と小児の熱性けいれんを取り上げました。最終ページには、診療時間、交通アクセスなどが掲載されています。



病気の知識

脳梗塞

“治療開始までの時間との勝負”

- 脳血管疾患いわゆる脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）による死亡は日本人の死因の第4位でH28年には10万7千人が亡くなっています。
- 脳の血管が詰まるのが脳梗塞、脳の血管が破れるのが脳出血、くも膜下出血で、脳梗塞での死亡が最も多くなっています。
- 近年、脳梗塞の治療が進歩し、発症後できるだけ早く専門施設に到着し血管の再開通治療に成功すればかなりの効果が期待されるようになりました。

【脳梗塞の分類】

①アテローム血栓性脳梗塞

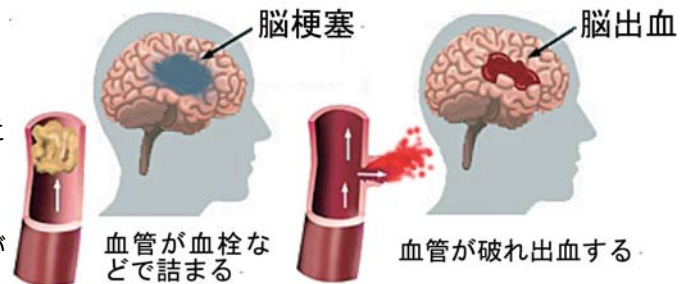
脳へ行く血管の動脈硬化が起こり、血管が詰まり血流が悪くなって起きます。

②心原性脳塞栓症

心房細動という不整脈などが原因で心臓内に血栓ができて、それが脳に流れ血管が詰まって起きます。

③ラクナ梗塞

加齢や高血圧などが原因で脳の深部にある細い血管が詰まって小さな脳梗塞ができた状態です。



【主な症状】

- 左右どちらかの半身（手や足だけのことも）の脱力（運動障害）やしびれ感（知覚障害）
- 言語障害（ロレツが回らない、頭で考えたことをうまく喋れない）
- ふらついて真っ直ぐに歩けないなどの歩行障害
- 片眼だけが見えなくなる、見えてはいるが視野が欠けてしまうなどの視力・視野障害

【発症の状況】

- 上記の症状が何時何分とも言えるほど突然に出現することが大部分です。
- 症状が5～30分で治ったとしても、それは脳梗塞の前ぶれ（一過性脳虚血発作）であり、本格的な発作の前兆です。

【脳梗塞の超急性期治療法】

- 脳梗塞の治療は「時間との勝負」です。
- 超急性期には血栓溶解療法やカテーテルによる血行再建術が行われますが、動脈に詰まった血栓を溶かす薬（t-PA）は発症から4時間半以内という制約があり、薬使用の判断のための検査（MRIなど）も必要のため1分でも早く専門病院に着く必要があります。

【脳梗塞に気づいたら】

- すぐに119番に電話相談をして、脳卒中治療を専門としている病院に搬送してもらいましょう。
- 「新潟市急患診療センター」には脳卒中専門治療に必要な検査設備や入院設備がないので、受診は勧められません。
- 「今は夜だから、明日の朝に診てもらおう」「今日は日曜日だから月曜日に病院に行こう」という行動パターンも大きな間違いです。



- 上記のような症状が見られたら、ただちに救急車を呼んで、脳卒中治療専門医療機関（病院）に搬送してもらいましょう。

熱性けいれん（小児）

“あわてない！”

【症状】

- 発熱に伴っておこる“ひきつけ”のことを言います。
- 生後6カ月から5歳頃まで、とくに1歳代の小児で急激に熱が上がる時に起こりやすいです。
- 子どもの7～8%がかかり、それほど珍しい病気ではありません。
- “ひきつけ”は発熱後24時間以内に起こることが多く、発作の持続時間は5分以内に治まることが多くて、10分を超えることは少ないです。
- 熱性けいれんのほとんどは生涯を通じて1回だけのことが多いのですが、再発することも30%程度みられ、3回以上繰り返しみられることも10%前後あります。
- 髄膜炎、脳炎、脳症などに伴うけいれんとの区別が重要となります。



【家庭での対応について】

- あわてない！：命に関わることはまずありません。
- 安静に！：口の中にもものを入れない。あわてて抱き上げたり、揺すったりしない。大声で呼ばない。
- 嘔吐に注意！：呼吸がしやすいように横に寝かせ、吐物を気道に詰まらせないように注意します。
- よく観察しましょう！：落ち着いて、けいれんのかたちや持続時間を観察します。その場を離れないことも大切です。



- 熱性けいれんの既往があり、今回も典型的な熱性けいれんの症状で、けいれん時間も短時間に終わり意識障害などがみられない場合は、一晩様子を観察した上で翌日にかかりつけ医を受診しましょう。



- けいれんが10分以上続く時
- けいれんが断続的に続く時
- けいれんが治まっても、呼びかけや痛みに対する反応が弱く、様子がおかしい時
- けいれんと共に嘔吐を繰り返す時
- けいれんが治まった後に、まひの出現や体の動きがおかしい時（場合によっては救急車も必要です）



次の症状がみられたら救急車を呼んでください。

- 熱がないのにけいれんを起こした
- けいれんが治まって1時間以上たっても意識が戻らない
- 短時間に何度もけいれんを起こす
- けいれんの後にくりかえし嘔吐（おうと）する場合
- 体の片側だけ強くひきつける場合

注意しよう！ 冬の健康管理

12月から1月にかけてイベントが盛りだくさんあり体力は落ちていませんか。これから本格的な冬を迎えるにあたりいくつか注意していきたいポイントを挙げてみます。



【感染症】

- 1) インフルエンザ：インフルエンザウイルスは乾燥環境を好みます。室温20℃前後・湿度50～60%以上を保つようにしましょう。咳エチケットとしてマスク（保温や湿度を保つ効果もあり）、手洗いをきちんとしましょう。免疫力の低下を防ぐために、食事・睡眠は十分にとりましょう。
- 2) 感染性胃腸炎（ノロウイルス）：帰宅時、調理前などは石けんで十分に手洗いをしましょう。カキなどの二枚貝はよく加熱しましょう。



【血圧】



- 1) 高血圧：暖かい室内から寒い室外へ出る時はある程度厚着をしたり、朝台所が寒くなっている場合は暖房で室温を上げたり暖かい服装をして食事の準備をするなど気温の変化に気をつけましょう。
- 2) ヒートショック：急激な温度変化により大きな血圧変動が起こり体に悪影響がでます。脱衣所やトイレを温めてから使用したり、お風呂の温度をあまり暑くしないようにしましょう。

【乾燥による皮膚疾患】：乾燥性皮膚炎防止には湿度管理や、スキンケアを行いましょう。

【積雪による転倒事故】：凍結や圧雪では滑りやすいので履物や歩き方に注意しましょう。

【低温火傷】：カイロやホットカーペットを直接皮膚にあて、寝込んでしまわないようにしましょう。



Q & A （質問に答えて）

Q1：他人が飼っている犬に咬まれケガをしました。受診する場合に健康保険証は使えますか？

A1：他人が飼っている犬や猫に咬まれたケガ、けんかなどで他人にケガをさせられた場合は、“第三者行為による傷病”に該当します。この場合に保険証を使って診療を受けることはできませんが、本来加害者（犬の飼い主など）が負担すべき治療費を健康保険で一時立て替えたこととなります。そのため、加害者に対する損害賠償請求権が生じた保険者（国保、共済組合、協会けんぽなど）に届け出る必要があります。健康保険証を使って治療を受けた場合、後日、保険者が加害者に対して治療費の請求を行うこととなりますので、示談をする前に必ず保険者（健康保険証をもらっている会社、国保の場合は市町村）へ電話でもよいので連絡して下さい。

Q2：急患診療センターのある1階の主な設備について教えてください。

A2：急患診療センターの設備として、入り口正面の階段裏に車イスが置いてありますのでご利用下さい。自家用車などで到着後車イスへの移動が難しい場合には、職員にお声がけ下さい。多目的トイレ（車イス用トイレ）にはベビーチェアとベビーシートが用意してあります。授乳室もありお湯が必要な場合には受付で対応いたします。売店はありますが飲みものとマスクの自動販売機が設置してあり、下痢・嘔吐・発熱等による脱水状態に有効な経口補水液（オーエスワン、OS-1）も購入できます。入り口近くには、公衆電話、AED（自動体外式除細動器）を備えています。消火設備や避難口も設置されていますので、万一火災を発見した場合には、大声で知らせ、あわてないで職員の指示・誘導に従って下さい。

診療時間

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。(在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あともがき

冬期間はインフルエンザや急性胃腸炎などで大変混雑します。診察や会計までの待ち時間が大幅にのびてご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199